



学校だより

<http://www.sumida.ed.jp/ryogokusho/>

令和8年9月1日

墨田区立両国小学校

墨田区両国4-26-6

TEL 3634-7876



小学校「算数」のよさ

校長 山崎 隆

夏休みが終わり、子供たちの元気な声が戻ってきました。ご家庭では連日の暑さ対策や健康管理等にお気遣いいただき、ありがとうございました。子供たちには、夏休みの貴重な時間や心に残る体験を生かして日々の学習や生活をさらに頑張ってもらいたいと思います。

さて、学習指導要領の改訂作業が中央教育審議会が進んでいます。その中で、小学校の「算数」の名称を中学校や高等学校と同じ「数学」に変更するかどうか議論されていましたが、文部科学省は、「数学」に変更することで子供たちが難しい教科だという印象をもつことや小学校現場の混乱を避けるため、変更は行わないという方針を出しました。では、小学校の「算数」と中学校の「数学」は何が違うのでしょうか。中学校では抽象的・論理的に整理して学んでいきますが、小学校「算数」のよさは、いつでも・どこでも・誰にでも使えるそして伝わる考え方をみんなで話し合いながら学習するところにあります。

それでは、具体的に3年生算数の授業を例に説明します。

【問題】 たろうさんが1000円持って買い物に行きました。はじめにパン屋で250円のパンを買い、次に果物屋で120円のリンゴを買いました。最後に文房具屋で80円の消しゴムを買いました。おつりはいくらでしょう。

この問題にAさん、Bさん、Cさん、Dさんの4人が次のように答えました。

Aさん	$250 + 120 + 80 = 450$	$1000 - 450 = 550$	答え 550円
Bさん	$1000 - 250 - 120 - 80 = 550$		答え 550円
Cさん	$1000 - 250 = 750$	$750 - 120 = 630$	$630 - 80 = 550$
			答え 550円
Dさん	$1000 - 250 = 750$	$150 - 120 = 30$	$100 - 80 = 20$
	$500 + 30 + 20 = 550$		答え 550円

答えはすべて550円ですが4人とも式が異なります。算数の授業ではそれぞれの考えについて学級のみんなに説明して考えを共有します。Aさんは、支払った金額を合計して、持っていた1000円から引いておつりを計算しました。Bさんは1000円から支払った順に引く式を立てて計算しました。Cさんは買い物をするたびにおつりを計算して最終的に答えを導きました。このように算数の学習では、子供たちはひとつの方法だけではなくいろいろな考え方を発表して話し合いを進めていきます。この場合、A、B、Cの3人の考え方は式を見ても納得がいくと思います。一方、Dさんの考え方は式を見ただけでは分からず、どうやって答えを導いたのかみんな考え込んでしまいました。

Dさんの説明は次のようなものでした。

パン屋さんで250円つかって1000円払ったら、500円玉と100円玉2枚、50円玉1枚で750円のおつりをもらいました。次に果物屋さんで120円のリンゴを買って、持っている750円の中から100円玉と50円玉で150円払って30円のおつりがきました。最後は文房具屋さんで100円玉で80円の消しゴムを買っておつりを20円もらいました。持っているお金は500円と30円と20円だから合わせて550円になります。

Dさんは、自分が買い物をして実際にお金のやり取りをしておつりをもらう様子をそのまま式に表していたのです。では、Dさんの考え方はまちがいののでしょうか。この後の展開は学級全体での話し合いになるのですが、続きはまた次の機会といたします。